

外国語科学習指導案

第5学年2組 令和元年 9月18日(水) 第6校時 (5年2組教室) 指導者: 松村 翼人
串間 道子

研究主題 考え、かかわり、学びをつなぐ 力を持った 児童の育成
～学びの必然性がある学習課題設定の工夫(1年次)～

考え、かかわり学びをつなぐ授業

- (1) かかわりの目的や、思考の視点の明確化
- (2) 学びをつなぎ、高める指導の工夫(発問、指示、問い返し、学習モデルや条件の提示、スキル)
- (3) 思考を深め、可視化する、効果的な思考ツールやICTの活用
- (4) 多様なかかわりをつくる学習形態の工夫(個別・ペア・グループ・全)

<必然性のある学習課題設定の工夫について>

- ・教材との出合わせ方の工夫(知的好奇心の喚起や実生活とのつながり等)
- ・多様な課題・問いを生み出す発問・教材・資料等の提示(既習事項・既有知識とのズレ等)
- ・必要感を高める課題設定(意見の対立・葛藤・生活課題の解決等)
- ・生活と関連付けた計画・ゴールの設定や道筋を明確にした計画等

1. 単元名 [I want to go to Italy.]

2. 単元の目標

- ① 国名や行きたい場所について、聞いたり言ったりすることができる。
- ② 行きたい国や地域について伝え合う。
- ③ 自分の考えを整理しながら友だちと伝え合うことができる。

3. 言語材料

○ Where do you want to go? I want to go to (Italy). Why? I want to [see / go to / visit] (the Colosseum). I want to eat (pizza). I want to buy (olive oil). It's [exciting / delicious / beautiful / great / fun]. ○ 国 (America, Australia, Belgium, Brazil, Canada, China, Egypt, Finland, France, Germany, India, Ireland, Italy, Japan, Korea, Peru, Russia, Spain, Thailand, the UK), 状態・気持ち (beautiful, delicious, exciting, fun), 動作 (visit, buy, eat), where, coffee など

4. 単元について

<教材観>

国際化が急速に進む社会の中を生きる子どもたちにとって、もっと世界に目を向け、日本と外国の文化に十分触れながら、その国に対する理解を深め、その違いや良さを認めようとする力を付けることは大切であると考えます。この単元は、世界の国々に興味をもち、それらの国の文化や習慣に対する理解を深める第一歩となることをねらっている。また、自分の行きたい国を伝えたり、その国の特徴を紹介したりする活動の中に、ゲーム的要素を多く取り入れ、対話を楽しませたい。そしてこの単元を通して、聞くこと・話すことの楽しさを十分に味わわせていきたい。

<児童観>

本学級の児童は課題に取り組むときに、進んで解決しようとする態度が身につけてきていると感じる。しかし、それをグループで話し合いや全体発表の際に、自分の意見を伝えることを苦手とする児童が多くいる。

英語については、普段から天気、曜日のカードを見たり、発音したりと慣れ親しんでいる。課題にも積極的に取り組んでいる。しかし英語に対し、苦手意識を持つ児童が多い。これらのことから、具体的な問題場面を設定して、教師が文法を間違えていても、英語の単語をたくさん使い、説明したり見本を見せたりしていく。わかる単語をつなげるだけでも相手に気持ちを伝えることができるのだと感じさせ、自信をつけていく。自分の考えを整理しながら、他者に伝え合う学習活動を多く設け指導していけば、理解が深まると考える。

<指導観>

指導に当たっては、これまで学習してきたように英語で会話する活動を多く取り入れ、聞くことや話すことの楽しさを味わいながら、自分の考えを整理し、他者に伝え合う活動をしていく。単元のファイナルタスクとして、旅行会社になりおすすめの国を紹介してもらうという活動を設定する。

まず、単元の導入では、場面設定を伝えることで、学習に必然性を持たせ、意欲が持続できるようにする。前単元の can を用いた表現の学習をおこなっているため、しっかりと復習をしていき、知識・理解の定着を図る。英語に対して苦手意識を持っている児童を含む、全体の英語への意欲向上と理解補助のため、デジタル教科書と和英辞書を使用する。具体的に、デジタル教科書では、映像を通じて視覚的に世界の国々の文化に触れる。写真と音声だけでは難しい内容も、理解が比較的容易になると考える。和英辞書では、自ら伝えたい英単語を調べ、その意味がわかった時の喜びの連続が、英語に対しての抵抗感を減らし、学びへの意欲向上に繋がるのではないかと考える。単語の意味や文法を知るために使うだけでなく、自分たちで意味を調べ、英語に対しての抵抗感を少しでも減らしていきたいことや継続的に意欲を持ち学習に取り組めるようにしていきたいという目的で活用していく。

次に、can の使い方の違いを理解し、今回の単元でのこの国では「こんなことができる」という前向きなおすすめの表現にもなることに気づかせていく。ここではゲームやリスニングを中心とした活動をおこない、慣れ親しむことから知識の定着につなげていく。また want to~という表現もはじめて登場する。自分のしたいことを伝えることはこれからの生活にも必要になることなのでゲームを中心に楽しんでほしいことを伝え合う活動をおこなっていききたい。

活用の部分では、実際に旅行会社になりおすすめの国を紹介する。調べ学習を班でさせ発、どの国

で何ができるのか、自分ほどの国を調べたいかを話し合う。その際に言語材料を多く提示し、スピーチ原稿を書かせていく。そして発表も英語でおこなうことで、英語で話す楽しさに気づかせるとともに、定着を図っていく。

4. 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
○自分の思いがはっきり伝わるように、国名や行きたい場所、したいことについて、聞いたり言ったりしている。 ○聞き取った単語の意味を理解し進んで活動で表現している。	○国名やその国でできることについての表現に慣れ親しんでいる。 ○行きたい国や地域について、尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しんでいる。	○世界には様々な人々が様々な生活をしていることに気付いている。

5. 単元指導計画（全8時間）

	目標	学習活動	主な評価規準
1 2	○can の使い方の復習をし、 can の用法を定着する。	・前時の復習をしできること、できないことを聞いたり言ったりすることができる。 ・他者に自分のできることやできないことを紹介し合おうとする。	関・意・態 既習事項を用いて can の使い方を定着する。
3 4	○主語を変えることで can の意味が変わることを理解する。	・「～ができる」という表現のほかに「～こんなことができる」という表現になることを知る。 ・聞き取った単語を辞書を使って調べ意味を理解しようとする。	慣 主語の違いで意味が少し変わり can の使い方の微妙な変化に慣れ親しんでいる。 関・意・態 調べた表現を用いて
5	○want to~の使い方を理解する。	・辞書を使うことや音声の表現を聞き、want to~の表現に慣れ親しむ。 ・ゲームを通して自分のしたいことを伝え合う。	慣 音声の聞き取りや活動を通して表現に慣れ親しみ理解を深めている。
6 7	○グループで国の紹介文を完成させる。	・旅行会社になり、実際にお客さんにこの国でこんなことができると伝え合うスピーチ文を作る。	言語 発表の調べ学習を通していろんな国の地域の様子に関心を持っている。

8	○自分たちの考えを整理し、調べた国について英語で伝えることや聞き取ることができる。	・前半と後半に分かれてパンフレットを持ちそれぞれの国で何ができるかを聞き理解する。 ・学習した表現を用いて何ができるか伝え合うことができる。	関・意・態 今まで習った表現を使い、英語を用いて伝え合うことができる。
---	---	---	--

6. 本時の目標

- ・～したいという表現に慣れ親しむ。
- ・“I want to eat~”という表現を使って、自分の食べたいものを伝え合うことができる。

7. 本時の展開

時間	子どもの意識の連続性	学習活動	教師の働きかけ	評価
	“Good afternoon Mr.Matsumura and Ms.Kushima.” “I’m good.” “It’s Wednesday.” “It’s September 18th.” “It’s Sunny.” ・“You can buy 紅芋タルト”. ・“You can see シーサー.”	・はじめのあいさつをする。 ・can の発音練習をする。	“Goodafternoon everyone.” “How are you?” “What day is it today?” “What’s the date today?” “How’s the weather today?”	・自分が旅行に行くならどう伝えるかを考えさせ、後の活動につなげる。 ・ある程度考えが出たところで問題提示をする。

7分	問題 「～したい」と英語で何というでしょう。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・「～したいってなんていうのかな。」 ・”Where do you want to go?” ・”I want to go to France.” … ・「ウォ？」って聞こえたかな。 ・なんて発音するのだろう。 ・「ワント トゥ」と発音するんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「～したい」について考える。 ・Let’s Chant “Where do you want to go?”を歌う。 ・発音練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここで”want to～”がはじめて出てくるので、音声活動から気づかせる。 ・子どもと一緒に歌う。 ・その後の活動での文例を発音練習に加える。 	
17分	Today’s goal want to～の使い方を知り、使ってみよう。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・「辞書で調べよう。」 ・”I want to eat ～.” ・“I want to eat ～.” ・“rock scissors paper 1,2,3!” 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラッシュドゲームをすることを伝える。 ・ペアで役割分担をし、班で確認する。 ・調べた単語の発音練習をする。(JTE) ・クラッシュドゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前のプリントと違い、英語が乗っていないワークシートを準備する。 ・JTE が発音練習をする。 ・担任は、苦手になっている子どもの近くで一緒に発音する。 ・ペアでそれぞれ端から “I want to ～.”で答えていき、ぶつかったと 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業者の話をしている。 ・辞書を使って意味を調べている。ワークシートに記入をしている。 ・相手の音声を聞き取ることができている。

21分	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じ人に聞かず色んな人に聞くのか。」 ・ ・ ‘What do you want to eat?’ ・ ‘I want to eat pizza.’ ・ ‘Hello.’ ・ ‘What do you want to eat?’ ・ ‘I want to eat ～.’ ・ ‘Thank you.’ ・ “Thank you Mr.Matsumura and Ms.Kushima.” ・ “See you.” 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビンゴゲームの説明をする。 ・発音練習をする。 ・一度ペアで練習する。 ・ビンゴゲームをする。 ・ビンゴがいくつかあったか確認する。 ・発音練習の復習をする。 ・ふり返りをする。 ・あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・eat に絞って～したいを伝えるように説明する。 ・新しくビンゴゲームででた単語だけを練習する。 ・複数の友だちに聞くことを伝える。 ・ “Stand up please. That’s all for today. You did a good job! Thank you everyone.” “See you.” 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめに見本を見せる。 ・既習の発音を使い、他者とコミュニケーションをとることができる。 ・ふり返りシートに書いている。
-----	--	---	--	---

8. 板書計画

プロジェ
クター

9/18

Today's Goal
want to~の使い方を
知り、使ってみよう。

“want to~” 「~したい」

絵カード

• “What do you want to eat?”

• ”I want to eat ~.”